

☆年間第6主日(2月14日)の聖書朗読☆※主任司祭からの解説があります。

### 第一朗読（創世記 3章 16-19節）

神は女に向かって言われた。お前のはらみの苦しみを大きなものにする。  
お前は、苦しんで子を産む。お前は男を求め彼はお前を支配する。」  
神はアダムに向かって言われた。「お前は女の声に従い取って食べるなど  
命じた木から食べた。お前のゆえに、土は呪(のろ)われるものとなった。  
お前は、生涯食べ物を得ようと苦しむ。お前にて土は茨とあざみを  
生えいでさせ、野の草を食べようとするお前に。お前は顔に汗を流して  
パンを得る土に返るときまで。お前がそこから取られた土に。塵(ちり)に  
すぎないお前は塵に返る。」

### 第二朗読（使徒パウロのコリントの教会への手紙 10章 31節～11章 1節）

皆さん、あなたがたは食べるにしろ飲むにしろ、何をするにしても、  
すべて神の栄光を現すためにしなさい。ユダヤ人にも、ギリシア人にも、  
神の教会にも、あなたがたは人を惑わす原因にならないようにしなさい。  
わたしも、人々を救うために、自分の益ではなく多くの人の益を求めて、  
すべての点ですべての人を喜ばそうとしているのですから。わたしがキリスト  
に倣(なら)う者であるように、あなたがたもこのわたしに倣う者となりなさい。

### 福音朗読（マルコによる福音書 1章 40-45節）

さて、重い皮膚病を患(わずら)っている人が、イエスのところに来てひざ  
まずいて願い、「御心(みこころ)ならば、わたしを清くすることができます」と言つた。イエスが深く憐(あわ)れんで、手を差し伸べてその人に触れ、「よろしい。清くなれ」と言われると、たちまち重い皮膚病は去り、  
その人は清くなった。イエスはすぐにその人を立ち去らせようとし、厳しく  
注意して、言われた。だれにも、何も話さないように気をつけなさい。

ただ、行って祭司に体を見せ、モーセが定めたものを清めのために獻げて、人々に証明しなさい。」しかし、彼はそこを立ち去ると、大いにこの出来事を人々に告げ、言い広め始めた。それで、イエスはもはや公然と町に入ることができず、町の外の人のいない所におられた。それでも、人々は四方からイエスのところに集まって來た。

### 朗読解説　一主任司祭より皆様へ

皆様お元気でおられることと思います。緊急事態宣言もようやくその効果が出始めたようで、もうひと頑張りというところでどうでしょうか。今日のミサはイエスが私たちの苦しみや悩みに答えてくださっていることが聖書のエピソードで教えてくださっています。私たちは人類としてコロナ感染症に苦しんでいますが、この苦しみを通して私たちに癒しを与えるよとなさっておられるのです。その癒しとは私たちが人の苦しみに心を開くときに与えられるのです。今日の聖書と一緒に考えていきましょう。

### 第一朗読（創世記 3章 16-19節）

今日は創世記が読されます。この創世記は私たち人類の起源が神にあることを語るものです。私たちの苦しみはどこから来るのか。神はエバに対し「お前の孕みの苦しみを大きなものにする」と述べ、アダムに対しては「お前は生涯食べ物を得ようと苦しむ」と述べられています。この苦しみが来るのは神からのように思えますが、実は、アダムもエバも自分が犯した罪を他人のせいにしているところにその原因があることを理解していないのです。神からの問いかけに正直に応えず、隠してしまい、食べるという決断をしたことを認めようとせず、死、苦しみを招いたのです。今日のミサの公式の集会祈願には「あなたは正義を求める人に、誠実な人とともにおられます。」と、唱えています。神の前に誠実であることが大事なのですね。

## 第二朗読（使徒パウロのコリントの教会への手紙 10章 31節～11章 1節）

使徒パウロがこの手紙を書いた背景には「偶像に供えられた肉を食べてもよいか」という問題があったようです。それに対してパウロは「何をするにしても、すべてを神の栄光を現わすためにしなさいと答えているのです。これは私たちにとっても毎日の行動原理です。この原理に照らし合わせて判断する必要があるということです。イエスが生活されていたのもこの原理でした。パウロもそうです。ですから皆さんは私パウロがキリストのように生きているように生きてくださいと励ましています。

## 福音朗読（マルコによる福音書 1章 40－45節）

マルコはイエスが宣教を始めると同時に癒しの奇跡を行っておられたと述べています。このようにイエスは癒しが行われているのはもうすでに神の国が始まっているのだと人々に伝えようとされているのです。イエスは重い皮膚病の人に触って治されていますが、この人に触るほど近くに神の力が来ているのです。私たちの信じる父である神は、遠くにおられる方ではないのです。そのような神なのだとイエスは私たちに伝えようとなさっておられるのです。またイエスは私たちの体の病気は触っても人全体に害を及ぼすものでもないことを教えておられます。イエスは別のところで次のように言っています。「私たちの中に入ってくるもので悪いものはない。そうではなく、私たちの中から出ていくものが悪くするのだ」と。皮膚病も体の中の病気も私たちを神から引き離しません。かえって私たちの心が汚くなることで私たち自身が神から遠ざかり、神から隠れようとするのです。これが罪なのです。第一朗読はそのことを述べています。

PS

今週の水曜日は「灰の水曜日」です。ミサ、「灰の式」は夜7時からです。この水曜日から四旬節という典礼の季節が始まります。復活祭までの期間です。今年の復活祭は4月4日です。喜びのうちにこの日を迎えられるように心を清めましょう。

カトリック足立教会  
主任司祭 野口重光